

1 はじめに

生徒会活動は、全校生徒をもって組織する生徒会において、自分たちの生活の充実・発展や改善・向上を目指して、生徒の自発的、自治的に行われる活動である。「The sky is the limit ～未来へのステップ～」を生徒会スローガンに委員会活動や学校行事の運営を行った。

2 資料

(1) 暇修祭の有志発表オーディション

昨年度から、本校の文化祭である暇修祭では、ステージを使った有志発表を復活させた。コロナ禍であった数年間は、有志発表をほとんど行ってこなかったもので、昨年度は、教員も生徒も全員が初めての状態での実施となった。そういった経緯から、「もっと良いものにしたい」という思いをもって今年度の生徒会活動を迎えた生徒が多かった。

そのため今年度は、少しでも運営に生徒が参加するように、有志発表のオーディションから生徒会役員も参加して進めた。オーディションを運営するに当たって、教員と生徒会役員たちと意見交換を行いながら進めていったことで当事者意識が高まり、より深い議論を交わしながら進めていくことができた。

また、参加生徒たちもオーディションから生徒会役員の生徒に見られていたことで、よりよいものを作りたいという意識が高まり、クオリティの高い演目を完成させていた。

(2) 意見交換のためのICT

Microsoft Teams 内に生徒会役員と担当教員が所属したチームを作成し、情報共有ができるようにした。また後半は、生徒会役員の中で Word を使って、リハーサルで出た反省や役割分担表やをまとめた資料を作成し、共有するなどの使い方もするようになっていた。



(3) 通信機器を活用しながらの生徒主体の運営

トランシーバーを生徒会役員中心に持たせ、生徒同士で連絡を取り合いながら、運営を進めるようにした。司会や機材担当だけでなく、全体の状況を管理し指示を出す担当まで役割を細分化し、生徒たちに割り振った。リハーサルから実践し、課題を生徒間で共有して、自分たちだけで運営できるように仕上げることができた。

3 成果と課題

今年度は、より生徒主体で暇修祭を行うことに力を入れ実践することができた。役割を細分化し、人員を配置することで生徒主体でも円滑で質の高い行事運営をすることができた。リアルタイムの連絡手段としてトランシーバーを使用した。数に課題があった。来年度は、タブレットを使い、より多くの人がリアルタイムで連絡共有ができるようにしていきたい。

今後も生徒一人一人が学校生活を「自分事」として考え、生徒会活動を行っていくことで、諸問題を解決するための自発的、自治的な活動の中で自己有用感や達成感を味わわせたい。